

0.1 ようこそ Java 実践の世界へ

0.1.1 「学習」から「実践」へ

Java は、現在最も広く使われているプログラミング言語の1つです。さまざまなソフトウェアやシステムを構築して顧客に届けるため、多くのソフトウェアエンジニアが Java を駆使して開発を進めています。Java を学び、今後ソフトウェアの開発現場で働こうとしている人も多くいるでしょう。しかし、Java を学び終えたからといって、すぐに開発現場で活躍できるわけではありません。なぜなら Java によるソフトウェアの開発には Java 言語の知識だけでなく、そのほかにも多くの周辺知識や技能が要求されるからです(図 0-1)。

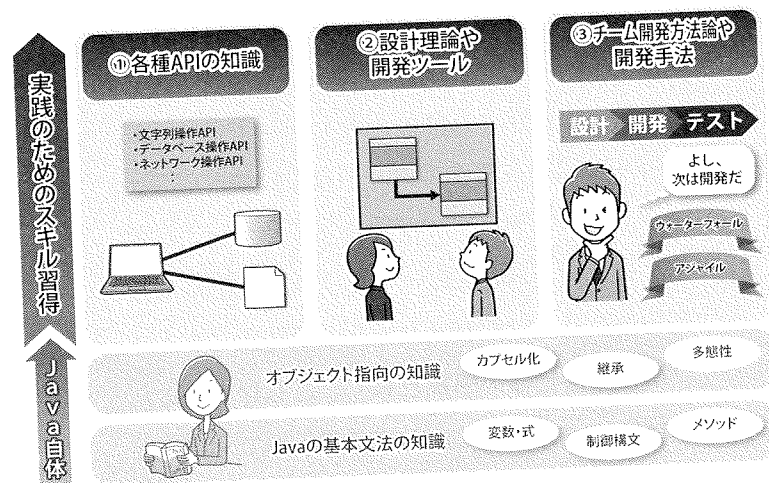


図 0-1 Java を使いこなすために必要なさまざまなスキル要素

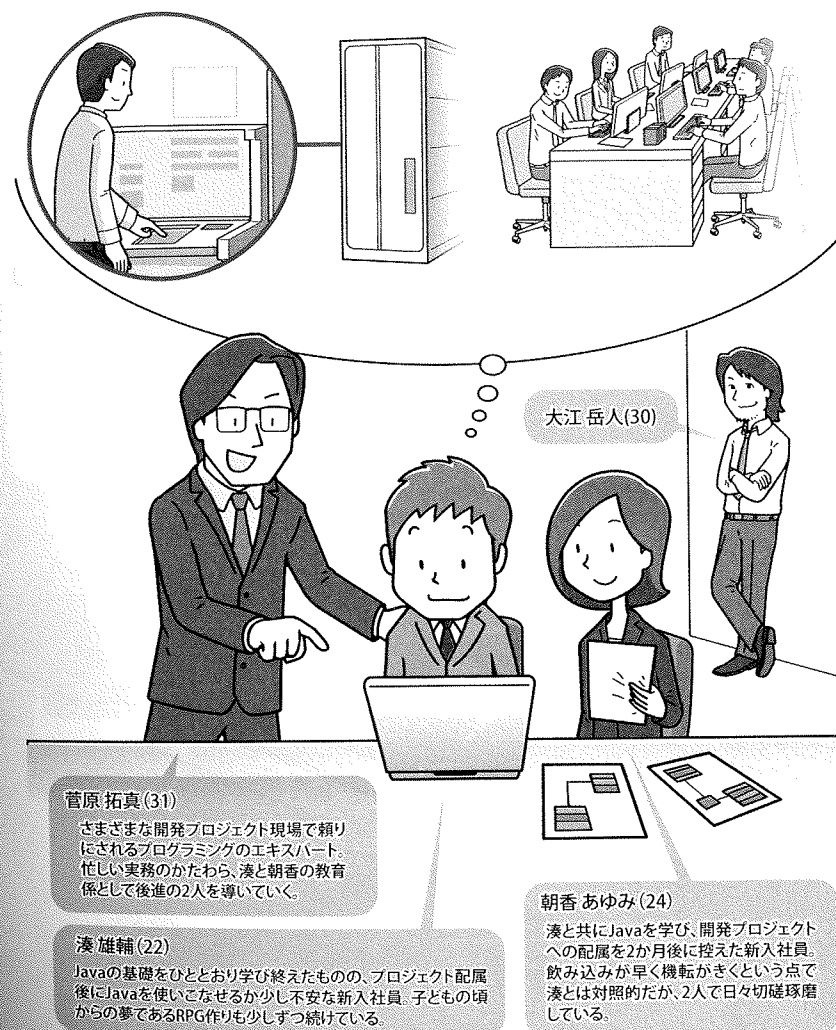
本書は、Java の基本文法やオブジェクト指向をひととおり学び終えた方を対象に、ソフトウェアの開発現場で働くためにさらに必要な知識を、やさしく・わかりやすく解説した入門書です。また、その執筆にあたっては図 0-1 に挙げた技術要素をまんべんなく盛り込むよう心がけました。

本書の解説を読み、サンプルコードやツール類を試すことで「Java のプログラムが書ける」というレベルから「開発チームの一員として、ソフトウェアの設計

から開発まで実践できる」エンジニアへとぜひステップアップしていきましょう。

0.1.2 一緒に Java スキルを磨く仲間たち

この本で皆さんと一緒に Java スキルの向上をめざす 2 人と、彼らを指導する先輩たちを紹介しましょう。



管原拓真(31)

さまざまな開発プロジェクト現場で頼りにされるプログラミングのエキスパート。忙しい実務のかたわら、湊と朝香の教育係として後進の2人を導いていく。

湊雄輔(22)

Java の基礎をひととおり学び終えたものの、プロジェクト配属後に Java を使いこなせるか少し不安な新入社員。子どもの頃からの夢である RPG 作りも少しずつ続けている。

朝香あゆみ(24)

湊と共に Java を学び、開発プロジェクトへの配属を2か月後に控えた新入社員。飲み込みが早く機転がさくという点で湊とは対照的だが、2人で日々切磋琢磨している。

0.1.3 実践へのロードマップ

これから湊くんと朝香さんの2人と一緒に、全4部・19章を通してJavaの開発に関する実践的な知識を学び、身に付けていきましょう。

第I部「さまざまな基本機能」では、Javaが備えるさまざまなしくみや命令について、より深く学びます。文字列やデータ構造、基本から一歩踏み込んだクラスを自在に操作する方法を身に付け、以降の部へ進むための準備を整えましょう。

第II部「外部資源へのアクセス」では、ネットワークやデータベースなど、JVMから外部にある資源を読み書きするためのAPIについて紹介します。これを活用



することで、皆さんのJavaプログラミングの可能性は大きく広がるはずです。

第III部「効率的な開発の実現」では、Java言語から少し離れ、開発手法やツールを紹介します。近年、この分野の研究が進み、開発現場において、より効率的な開発を実現するためのツールの導入が急速に進んでいます。「業務としてチームで開発すること」に重点を置き、より効率的に楽しく開発を進めるための方法や考え方について、伝統的なものから最新のものまで織り交ぜて紹介します。

最後の第IV部「より高度な設計をめざして」では、優れたプログラム設計を行うための理論やしぐみを紹介します。思いつきではなく、確固とした根拠に基づいたプログラム開発をめざしましょう。

